

第 8 次東京都保健医療計画（周産期医療）【案】

< 課題 >

- 精神疾患を合併する妊産婦は、受入医療機関に限られること等により、搬送に時間を要する事例が発生
- 妊娠中の精神疾患だけでなく、産後うつに対する支援の必要性も高まっており、妊産婦の精神疾患への対応を強化する必要

< 取組 >

- 周産期母子医療センターにおいて精神科と連携の上、精神疾患を合併する妊産婦に対応
- 精神疾患合併妊産婦や産後うつのハイリスク者への支援が適切に行われるよう、周産期医療ネットワークグループを通じ、精神科医療機関も含めた地域における関係医療機関と地域保健行政間の連携を促進
- 妊産婦等のメンタルヘルスケアに携わる人材等、保健・福祉分野の専門人材等も周産期医療協議会や周産期医療ネットワークグループに参画し、精神疾患を合併する妊産婦への対応を検討

今後の取組について（予定）

- 周産期医療協議会の委員として、新たに、**妊産婦等のメンタルヘルスケアに携わる人材***と**市町村の福祉保健所管部署の代表者**を追加 ※ 地域の精神科医療機関を代表する者等を想定
- 各地域の周産期医療ネットワークグループ会議等の場に、**地域の精神科医療機関や区市町村にも定期的に参画**いただき、関係機関間の更なる連携促進を図る
 - ⇒ 都からも、地域の精神科医療機関等に対し、周産期医療ネットワークグループへの参加協力を依頼


～（参考）区南部ブロックの取組～

城南地区周産期メンタルヘルスケア連絡会

- **目的** 産科・小児科・精神科の医師・看護師・助産師、行政・地域の保健師など周産期のメンタルヘルスケアに関わる医療関係者や行政の担当者が一堂に会し、顔の見える形で情報交換を行うことで、連携体制を構築し、今後各機関での診療等に役立てることを目的として開催
- **開催実績** 2018年2月より、年2～4回開催（これまでに計16回開催）
- **参加施設** 昭和大学病院（産科・小児科・精神科）、東邦大学医療センター大森病院（産科・精神科）、品川区、大田区、地区内産科医療機関・訪問看護ステーション ほか
- **内容** 情報共有、事例検討、地域連携の在り方等の意見交換

母と子のメンタルヘルスケア研修会

- **日程** 2019年1月、10月
- **参加者** 城南地区周産期メンタルヘルスケア連絡会参加施設の医療関係者、自治体担当者等
- **内容** 入門編：周産期メンタルヘルスの基礎知識、質問票の使い方のロールプレイ等
基礎編：実践的知識と精神療法の基礎、事例対応のグループワーク等



定期的に情報交換の場を持つことで、関係機関間で相談しやすくなり、連携がよりスムーズに図られるようになった